

新しい年の始まりに Finding Our Light

教頭 吉岡 真左美

新しい年を迎えました。今年は午年ということで、『馬のように颯爽と元気よく』といった願い事をした方もいらっしゃると思います。新しい年を迎えると、心も体もリフレッシュするように思えます。時間という流れは過去から未来へと持続していきますが、新年などの節目節目に、気持ちを新たに作る習慣は良いものだなと思います。

少し時間を巻き戻して、初等科のクリスマス・ウィッシングでは『Finding Our Light』をテーマに、一人ひとりが持っている「三つの光」について改めて考えました。「光」を知らない、気づいていない一人の少女が、イエス様の光を通して自分の光に気づく姿から、「私の光って何だろう」「私の光を誰かのために使いたい」という思いが広がっていったようでした。クリスマスに考えを深め、そして新しい年を迎えるという流れは、初等科生にとって意味深いものになったのではと思います。新しい年に、新しい気持ちで、前に進んで行くことを願っています。

「私の光」とは・・・さっと答えることはなかなか難しいかもしれません。特に思春期を迎えると自己肯定感を保つことが難しく、答えられないこともあると思います。そんな時、他者から褒められたり感謝されたりした経験が、自分の光に気づくヒントになるのではと思います。

「いつも進んで挨拶をして素敵ですね」「手伝ってくれて本当に助かったわ」など、日常のちょっとした言葉が自信を与えてくれたり、喜びを感じることに繋がったりします。大人ですと、それまでの様々な経験から「これが私の良い個性」「これは自信が持てる」と自分自身を分析できますが、大人ほど経験が多くない子どもたちの場合は、大人を含めて周囲の人たちがちょっとしたことでも褒めたり感謝の言葉をかけたりすることは大事だと思います。

同時に、他者の良いところを見つけられるということも、その人の持つ「光」と言えます。



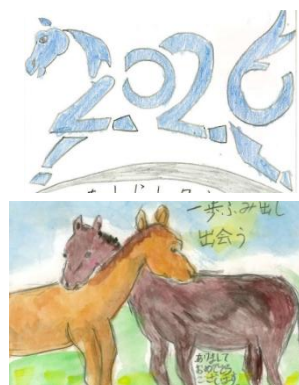
クリスマス・ウィッシングのお話に登場する一人の少女は、イエス様の「光」に出会って、直感的に「この方は素晴らしい」と感じます。そのように感じ取れることこそがあなたの「光」なのです。と仰るマリア様とヨゼフ様の導きによって、少女は自分の光に気づくことができました。他者の良いところに気づく柔軟な心は、大人にとっても子どもにとっても大事なものです。その心があると他者への温かい言葉がけもでき、良い循環が生まれます。そのような関係性によって平和が生まれることを、イエス様は説いていらっしゃいます。

新しい年を『Finding Our Light』の視点で始めていきたいと思います。本年も宜しく願い申し上げます。

1月の行事予定

9日(金)	新年の祈り 2限～平常授業・午前授業 臨時身体測定	20日(火)	5年まとめのテスト
12日(月)	成人の日	21日(水)	5年まとめのテスト
14日(水)	2nd百人一首大会 2年自然教育園見学	30日(金)	学習発表会総練習(3・4限)
15日(木)	下校グループの集まり		
16日(金)	月曜時間割		

～年賀状から～



英語力向上を目指して 効果的なインプットを

英語科主任 田中 愛子

英語を教えていると、「ペラペラと話せるようになって世界で活躍したい。」「英語なんて一生使わないし、AIがあるからできなくても大丈夫でしょ。」など、色々な声が聞こえてきますが、英語を身につけることは確実に自分の世界を広げることにつながります。英語で何をしたいのか、あるいは英語を使えば何ができるようになるのか、つまり英語を手段として自分の可能性を広げていくことができるのです。グローバルな社会に生きる子どもたちが将来自分の力を十分に発揮するために、英語力は必要だと考えます。

しかしながら、普段日本語を使って暮らしている私たちが英語を自由に使えるようになるのはそう簡単なことではありません。英語と日本語の言語の距離は遠く、発音から文法構造まで違いが大きすぎるのです。世界の英語人口のうちの75%が、外国語や第2言語として英語を使用している現実を考えると、「完璧な英語」というより文法や発音の間違いを恐れずに「伝わる英語」を身につけることが大事だと気づくでしょう。そしてさらに大事なことは、様々な文化背景を持つ世界の人々のことを知り、相手の立場や国の状況を理解した上で自分の意見を言える力だと思います。心を通い合わせるコミュニケーションをAIに任せられるのかは疑問です。

さて、初等科では各学年週2時間、ネイティブスピーカーと日本人のチームでの授業が行われています。英語学習に欠かせないのは、適切なインプットをできるだけたくさん得ることです。これは、わからない英語を聞き流すことではありません。授業では、それぞれの学年に合ったスピード、語彙を用いた英語を一生懸命聞き取ります。全部理解できなくても、繰り返し聞くうちにアウトプットにつながる表現を聞き取れるようになります。文字と音の関係を学ぶと、絵本を読むことによる文字からのインプットも始まります。ただ、授業でのインプットだけでは十分とは言えません。ご家庭でも、学校独自のウェブサイトを開いたり、テレビや動画、絵本など英語に触れる機会を作り、お子様と共に楽しめるとよいでしょう。ただし、ビデオに任せて一人で視聴させてもあまり意味がないかもしれません。他者との触れ合いなしに、音声や動画だけを与えても学習効果はない、という研究結果も報告されています。見たい、知りたい、伝えたいというワクワクするような気持ちを持ち、他者との関わり合いの中で学ぶことが大事なのでしょう。



高学年になると文法を学び始め、これまでのインプットに文法の知識を加えて、アウトプットの幅が広がります。5年生ではオーストラリアの同年代の児童との、英語と日本語の教え合いのオンライン交流を行っています。用意したスピーチではなく、その場で聞かれたことに自分の言葉で答えるという、本物のコミュニケーションを全員が体験します。間違いを恐れずに、一生懸命自分のことを伝えようとする姿は、見ていてとても頼もしいです。6年生では、Tokyo Global Gatewayを訪問し、外国に滞在しているかのような英語だけの時間を過ごします。中高等科

生になると、世界中の聖心ネットワークを利用して海外で学ぶ機会もあります。また、First Stage English Day や5年生の学習発表会での英語劇、6年生のChristmas Wishing など、英語での舞台発表の機会もあり、普段の練習の成果を発表する場となっています。

英語学習には一つの正しい学習方法があるわけではありません。個々の学び方の特性に合った勉強法を見つけることも大切です。聖心ではグローバルマインドで常に世界に目を向け、英語を使って世界で活躍する先輩方も多く輩出しています。相手のことを思いやりながら、自分の英語でしっかりと思いを伝えられる、そんな子どもたちを育てたいと考えています。